

緑の風



JR東労組

NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2025年 6月 13日 No.2

第44回定期大会

大会宣言

JR東労組は、ソニックシティ小ホールにおいて「第44回定期大会」を開催し、スローガンをはじめとする運動方針などを満場一致で確認した。また、組織実態を踏まえた規約・諸規則の一部改正も承認された。

第43回定期大会以降46名の組織拡大を実現し、今大会では、「いかに組織強化・拡大を行うか」について集中審議を行った。失敗を恐れずに相手に向き合い、寄り添い、共にたたかう仲間を増やすため、実践の共有と議論を繰り返したことなど、悩みや苦労を含めた発言が出され、組織拡大と過半数代表選でのたたかいの教訓を意思統一し、1万名組織の実現に向けてさらに邁進していく決意を参加者が一体となり確認した。

25春闘では、組織拡大や1,300名を超える春闘集会がつくり出したことは成果である。満額でもないのに春闘破壊といえる早期回答で、格差が拡大したベア回答と、僅か0.1カ月プラスという夏季手当回答をした経営姿勢を突破するためにも、「統一要求・統一闘争」でたたかい抜いたJR総連春闘の教訓を活かし、更なる連帯・共闘の強化をつくり出していく。そして、バス東北本部、バス関東本部、ステーションサービス協議会の仲間と共に最後までたたかっていく。

「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」が示された。本社と36事業本部の二層構造への組織再編と、「究極の融合と連携」として生産性を上げ、評価制の人事・賃金制度が導入されようとしている。過度な競争を職場に持ち込み、安全を脅かすものは反対である。組織再編されても、JR東労組として経営姿勢に立ち向かえる体制を職場からつくり上げていかなければならない。「定期昇給を軸とした新たな格差と分断、不利益変更反対！安全・健康・生活を守るため、全組合員でたたかおう！」のスローガンを掲げ、会社の狙いを明らかにしていく議論を職場から巻き起こそう。

連続して発生した新幹線分離のみならず、止まらない事故・事象、これまでにない豪雨や豪雪などの異常気象の中でも、安全な鉄道を守ってきたのは、経験に裏打ちされた技術継承とチームワーク、現場の努力・奮闘である。これからも命を最大の価値基軸に据え、安全で安心して働ける職場をつくるために、原因究明委員会等の議論を活発化させ、全組合員で安全第一の職場をつくり出していこうではないか。

未だに止まぬ不当労働行為、社友会を通じた社員差別を断じて許してはならない。ましてや、あったことをなかったことにする行為は犯罪であり、「被害者が加害者にされた！JR東日本武蔵小金井駅暴行事件」によって鮮明になった会社姿勢とたたかっていく。また、会社にとって邪魔者を排除するかのような不当転勤も横行するばかりか、繰り返される不当労働行為に対して再三にわたり団体交渉で指摘をしてきたが、会社姿勢は変わらない。不誠実な団体交渉の課題は組織全体に関わる問題であることから、第三者機関の活用も視野に入れた議論を深めていく。健全なJR東日本グループにしていくために、仲間との連帯を強化し、さらなる組織強化・拡大を実現していこう。

今でも、不通区間の運転再開を待ちわびている地域の方々がいることを、旅のプレゼントを通じて実感した。そのために安易なローカル線見直しには反対し、利用していただいているみなさんの目線にたち、地域の方々と共に、安全で安心してご利用いただける鉄道にしていかなければならない。

平和で安心して暮らせる社会の実現は、私たちだけではなしえない。戦後80年を迎える今こそ「抵抗とヒューマンイズム」の精神を根底に、広範な連帯をつくり出していこう。そして、一人ひとりの政治意識を高め、今夏の参議院議員選挙に臨んでいこう。

2025年は様々な節目を迎える。過去から学び、新たな未来へ確実に継承していくための実践が今問われている。JR東労組としてこれまで築き上げてきたものを、さらに強固なものとするために「新生JR東労組運動宣言」のもと、「当たり前の労働運動」を職場から仲間と共に愚直に推し進めていく。1万名組織をめざし、困難を乗り越え、仲間と共に進んでいこう！

以上、宣言する。

2025年6月12日
東日本旅客鉄道労働組合
第44回定期大会